

第2章

障がい者福祉の現状

第2章 障がい者福祉の現状

1 人口の推移と予測

本市の総人口は、2度のベビーブームや産業の発展などに伴う転入により増加を続けてきましたが、平成22年11月の26万863人をピークに減少傾向に転じており、平成31年1月1日現在では、25万7,879人となっています。「日本の地域別将来推計人口」では、平塚市の人口は今後も減少していくものと推計されており、人口減少への転換期に入ったことがうかがえます。

本計画の最終年度の翌年となる令和7年には、平成31年と比べて10,000人程度の減少になると推計されていますが、現在の人口減少のペースは推計値を上回っている状況です。

(単位：人)

区分	年少人口		生産年齢人口		高齢者人口		不明	計
		構成比		構成比		構成比		
S40年	32,470	24.1%	95,695	70.9%	6,766	5.0%	0	134,931
S45年	39,562	24.2%	115,588	70.6%	8,521	5.2%	0	163,671
S50年	50,582	25.9%	134,010	68.5%	11,026	5.6%	17	195,635
S55年	54,674	25.5%	145,134	67.7%	14,414	6.7%	71	214,293
S60年	52,092	22.6%	160,067	69.6%	17,829	7.8%	2	229,990
H2年	45,445	18.5%	178,114	72.4%	22,313	9.1%	78	245,950
H7年	40,404	15.9%	185,223	73.0%	28,171	11.1%	24	253,822
H12年	37,063	14.6%	182,706	72.0%	34,010	13.4%	24	253,803
H17年	35,598	13.8%	178,622	69.4%	43,025	16.7%	6	257,251
H22年	34,772	13.4%	169,891	65.3%	55,373	21.3%	49	260,085
H26年	33,027	12.8%	162,667	63.1%	62,292	24.1%	90	258,076
H31年	30,191	11.8%	154,737	60.4%	71,129	27.8%	1,822	257,879
R7年 (推計)	25,809	10.4%	146,265	59.1%	75,536	30.5%	0	247,610

注：各区分の構成比は端数を四捨五入しているため、昭和55年及び平成17年の構成比を合計しても100%とならない。また、平成26年、平成31年の構成比は、合計人口から不明を除いた人数に対する割合となる。

資料：平成31年までの年齢別人口（推計人口）は、平塚市行政総務課調べ（各年1月1日時点）
令和7年（推計）の年齢別人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

2 障がい者数

(1) 障がい者総数

平成 31 年 4 月現在の全国の障がい者人口は、9,635,000 人と推計されています。

障がいの種類別の内訳は、身体障がい者が 4,360,000 人、知的障がい者が 1,082,000 人、精神障がい者が 4,193,000 人です。

一方、本市の障がい者人口は平成 31 年 4 月 1 日現在、14,709 人と推計しており、総人口の 5.7%を占めています。

障がい種類別の内訳は、身体障がい者が 8,138 人、知的障がい者が 1,980 人、精神障がい者が 4,591 人です。

また、この他にも障がいの認定は受けておらず、日常生活など生活上に支障を感じている人も一定程度いるものと考えられます。

なお、障害者基本法における障がい者の定義は、身体障がい、知的障がい、精神障がい（発達障がいを含む。）その他の心身の機能の障がいがある者であって、障がい及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものとされています。本項では、統計上、身体障害者手帳交付者数、知的障がい児者把握数及び精神障害者保健福祉手帳交付者数を表記していますが、本計画が対象とする「障がい者」は、障害者基本法の定義と同様です。

◇ 全国・平塚市の障がい者人口

区 分	全 国	平 塚 市
身体障がい者	4,360,000 人	8,138 人
知的障がい者	1,082,000 人	1,980 人
精神障がい者	4,193,000 人	4,591 人
合 計	9,635,000 人	14,709 人
総 人 口	126,254,000 人	257,499 人
総 人 口 比	7.6%	5.7%

注：平塚市における精神障がい者数は、平成 30 年 3 月 31 日における精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療（精神通院）の両方若しくはいずれかの交付者数、利用者数の合計とした。ただし、精神障害者保健福祉手帳のみの交付者数については、交付者全体の 2 割と推計して算出した。

資料：（全国）令和元年版障害者白書、平成 31 年 4 月総務省統計局人口推計月報

(平塚市) 平成 31 年行政概要 他、平成 31 年 4 月 1 日現在の推計人口 (平塚市行政
総務課調べ)

(2) 身体障がい者

本市における身体障がい者人口は、平成 30 年度末現在で 8,138 人です。身体障がい者人口は、平成 20 年度と比べ 5.4% 増であり、10 年間で 420 人増加しました。

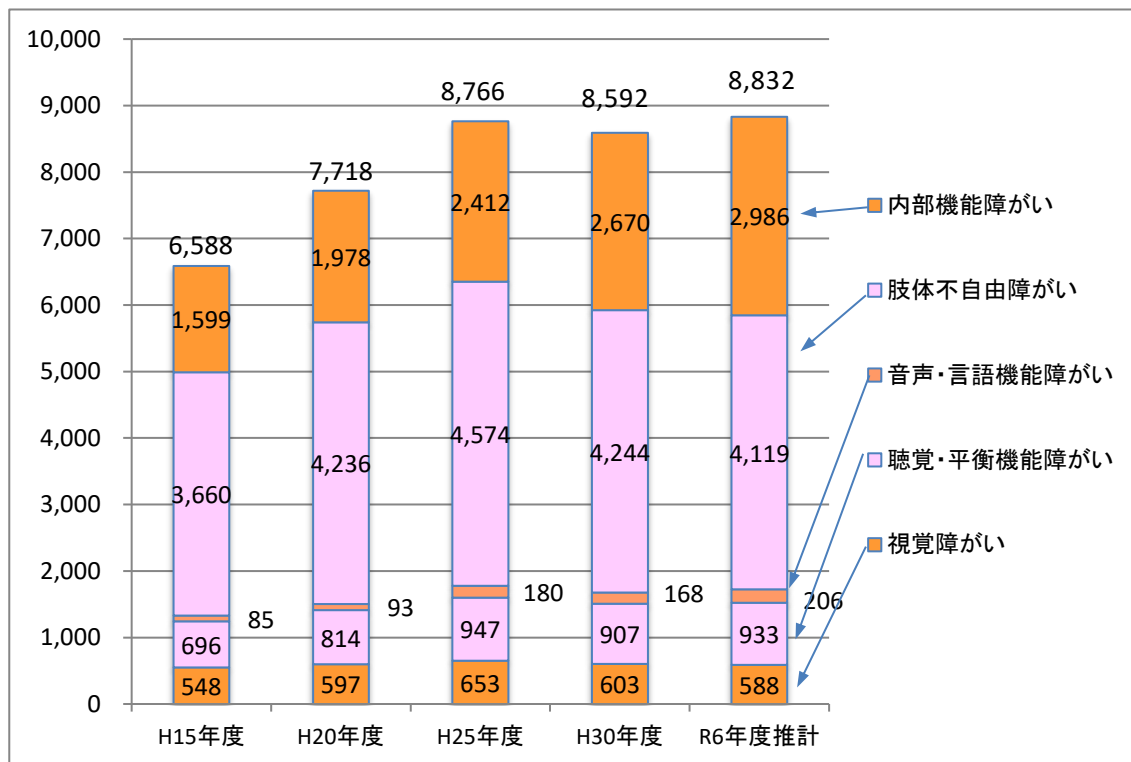
障がいの種類別では、肢体不自由が最も多く 4,244 人であり、次いで内部機能障がいの 2,670 人となっています。障がいの種類の中では、特に内部機能障がいの増加が顕著となっています。

一方、障がいの等級別では、1 級が最も多く 3,009 人であり、次いで 4 級の 1,726 人となっています。特に 1 級の増加が他の等級に比べて顕著となっており、障がいの重度化の傾向が見られます。

令和 6 年度における身体障がい者人口を推計したところ、8,832 人と平成 30 年度と比較して 240 人の増加 (2.8% 増) が見込まれます。また、年齢別に見ると、平成 30 年度における 65 歳以上の身体障がいの割合は、平成 25 年度と比較してほぼ同様の割合になっています。

このことから、高齢化に伴う身体機能の低下による手帳取得が今後も増加し、障がい者の高齢化及び重度化の傾向は強まっていくものと考えられます。

◇ 平塚市の身体障がい者人口の推移 (障がいの種類別) (人)

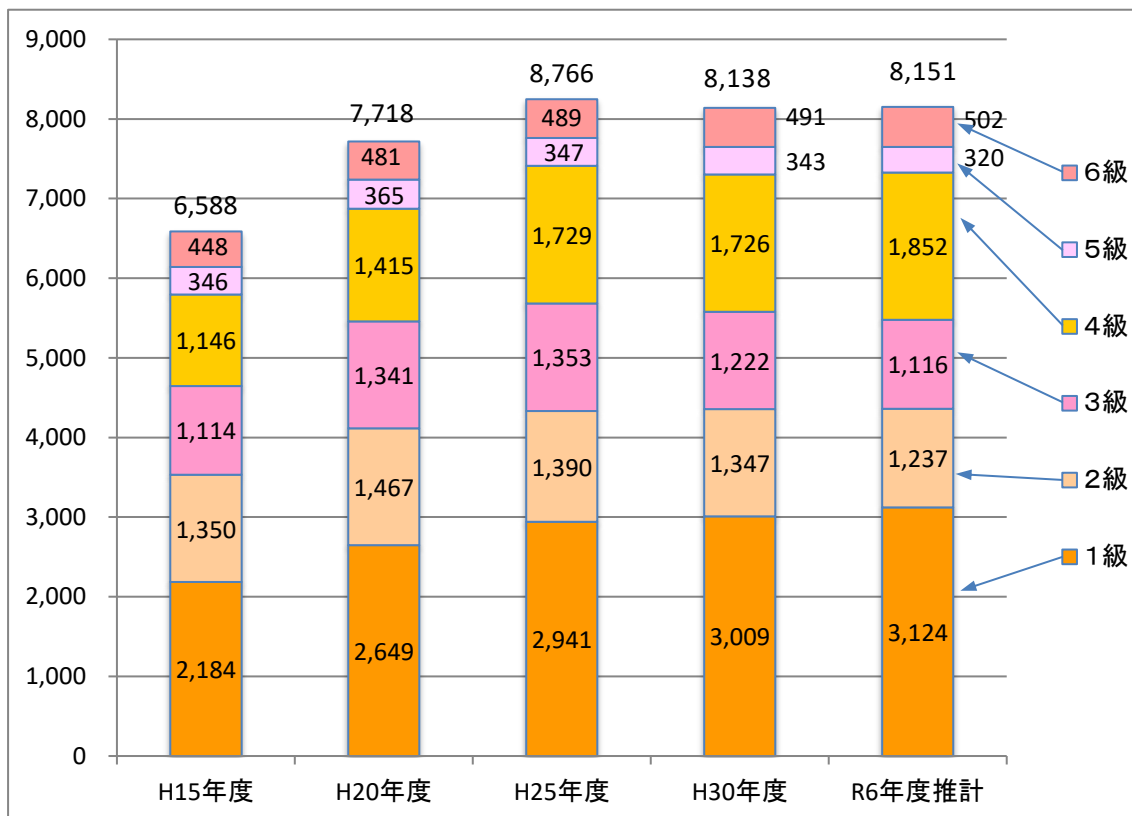


注：平成21年度までは代表障がいのみを集計していたが、平成25年度以降は重複障がいを延べ数で集計しているため、障がいの程度別人数とは一致しない。

資料：平塚市障がい福祉課調べ

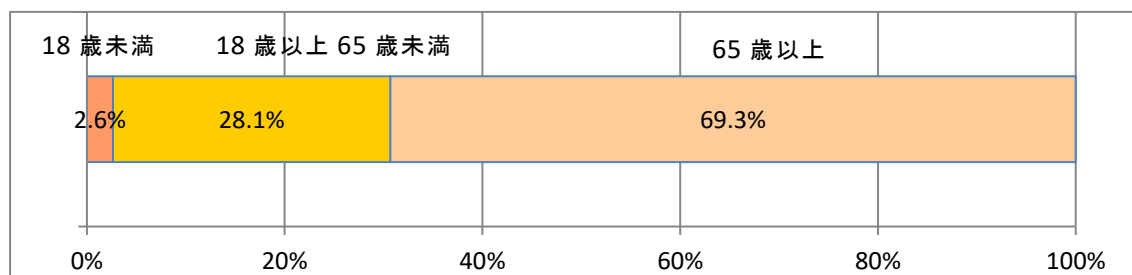
◇ 平塚市の身体障がい者人口の推移（障がいの程度別）

（人）



資料：平塚市障がい福祉課調べ

◇ 平塚市の身体障がい者人口の割合（年齢別）（平成30年度）



資料：平塚市障がい福祉課調べ（平成31年3月31日現在）

(3) 知的障がい者

本市における知的障がい者人口は、平成30年度末現在で1,980人です。障がいの程度別では、軽度（B2）が最も多く653人です。

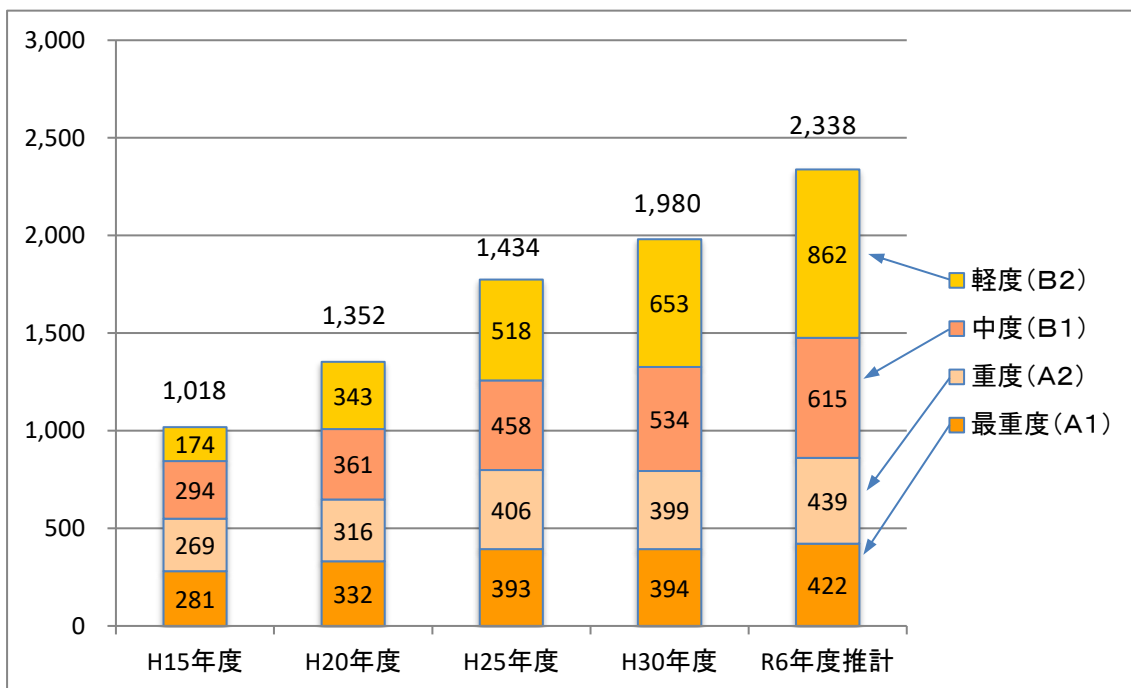
知的障がい者人口は、平成20年度と比べ46.3%増であり、10年間で628人増加しました。特に軽度（B2）の増加が顕著となっています。

年齢別では、18歳未満の人の割合が28.4%で、平成25年度と比べて2.6%減少しています。

令和6年度における知的障がい者人口を推計したところ、2,338人と平成30年度と比較して358人の増加（18.1%増）が見込まれます。

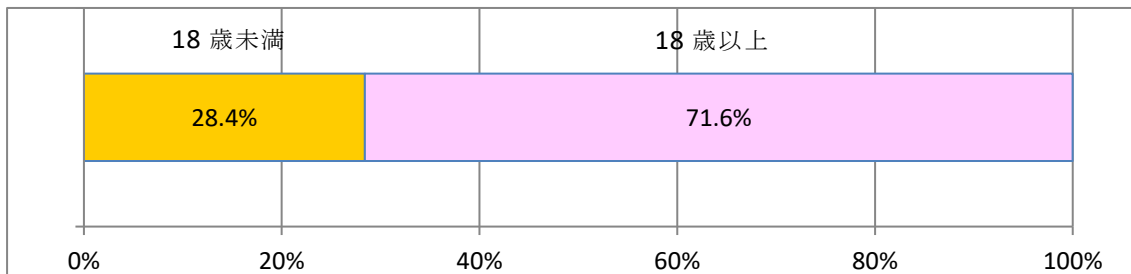
◇ 平塚市の知的障がい者人口の推移

(人)



資料：平塚市障がい福祉課調べ

◇ 平塚市の知的障がい者人口の割合（年齢別）（平成30年度）



資料：平塚市障がい福祉課調べ（平成31年3月31日現在）

(4) 精神障がい者

精神障がい者人口は、正確な把握が困難なため、ここでは精神障害者保健福祉手帳の取得者と、自立支援医療（精神通院）の利用者を分析しました。

精神障害者保健福祉手帳取得者数は、平成30年度末現在2,232人で、平成20年度と比べ1,082人増加し、94.1%増となりました。

令和6年度における精神障害者保健福祉手帳の取得者を推計したところ、2,786人と平成30年度と比較して554人の増加（24.8%増）が見込まれます。

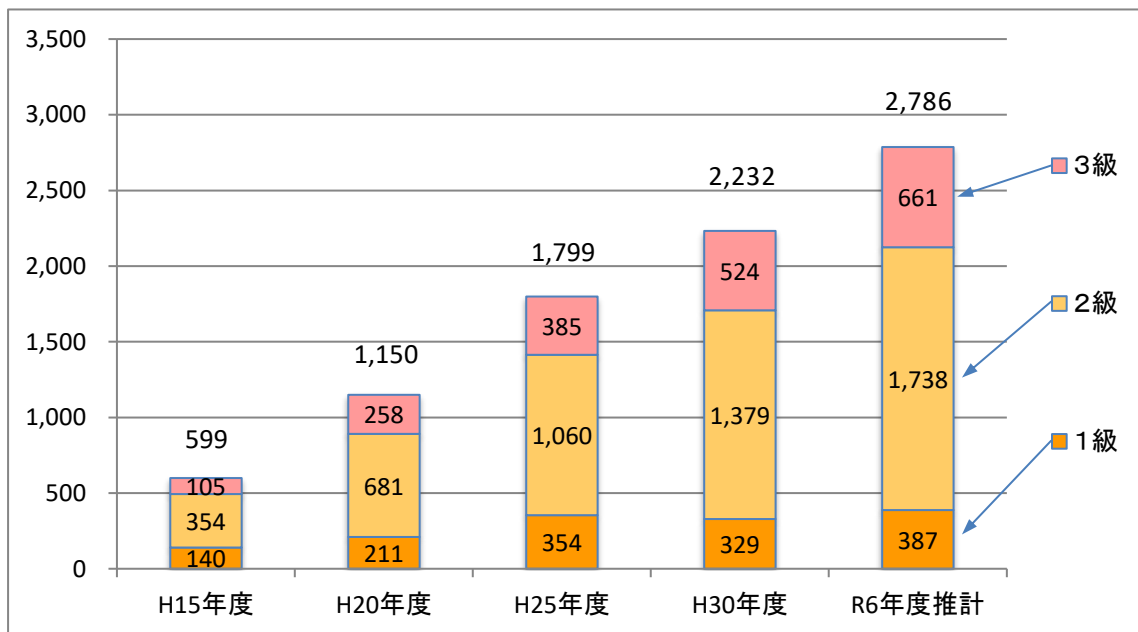
一方、自立支援医療（精神通院）は、障害者自立支援法の施行により、通院医療費公費負担制度を受けて平成18年度に創設された制度です。利用者数は、平成30年度末現在4,145人で、平成20年度と比べ1,480人増加し、55.5%増となりました。

令和6年度における自立支援医療（精神通院）の利用者を推計したところ、4,869人と平成30年度と比較して724人の増加（17.5%増）が見込まれます。

双方の制度とも、取得者及び利用者の伸びは著しく、今後ますます精神障がい者人口は高い割合で増加していくものと考えられます。

◇ 平塚市の精神障害者保健福祉手帳取得者の推移

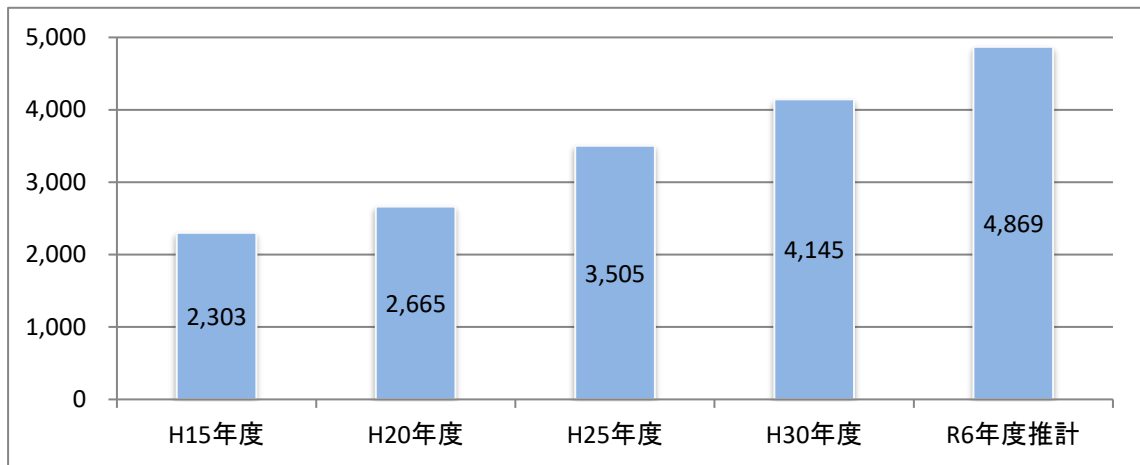
(人)



資料：平塚市障がい福祉課調べ

◇ 平塚市の自立支援医療（精神通院）利用者の推移

(人)



資料 : 平塚市障がい福祉課調べ

3 障害支援区分の状況

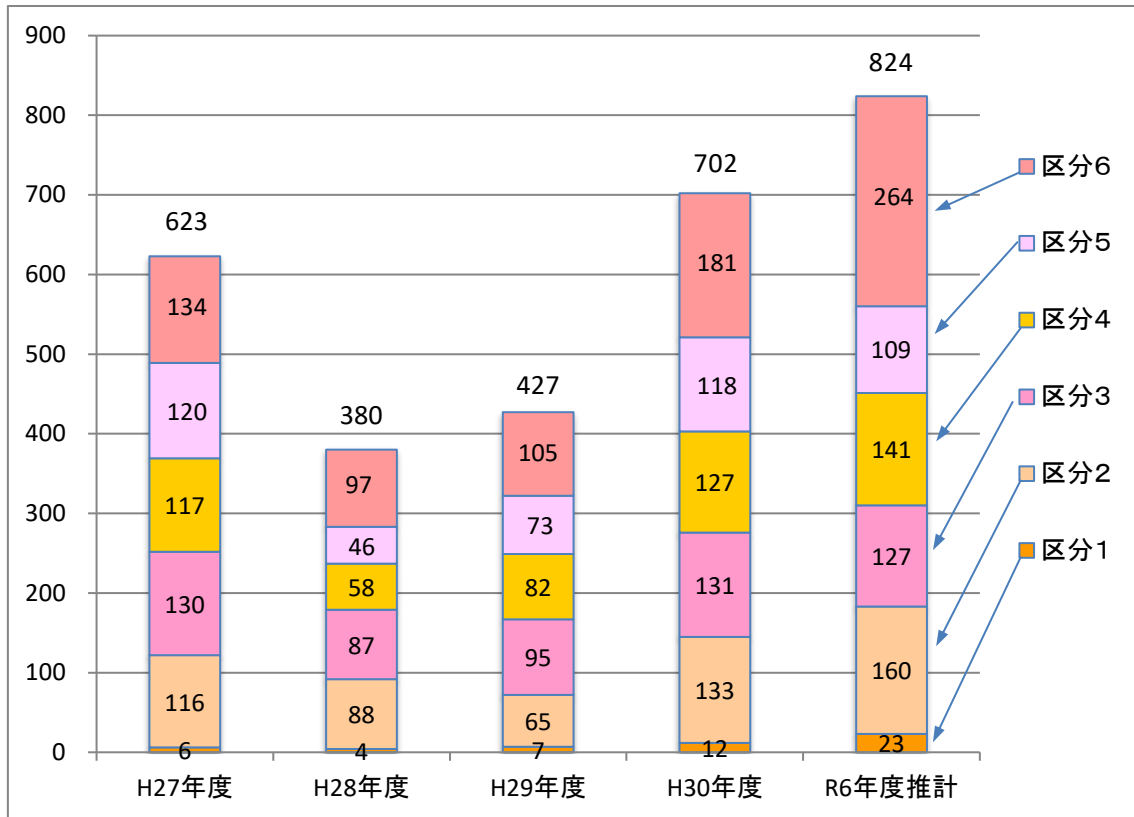
本市における障害支援区分の状況は、平成 30 年度末現在で、全体数では 702 人、区分別では、介護給付の必要度が最も高い区分 6 が 181 人であり、次いで区分 2 の 133 人の順となっております。

障害支援区分の期間が最長 3 年間であるため、3 年周期で大きく推移しているため、平成 27 年度と平成 30 年度を比較すると、全体では 12.7% 増であり、79 人増加しました。

令和 6 年度における障害支援区分の状況を推計したところ、全体で 824 人と平成 30 年度と比較して、122 人の増加(17.4%増)が見込まれます。

◇ 平塚市の障害支援区分の推移

(人)



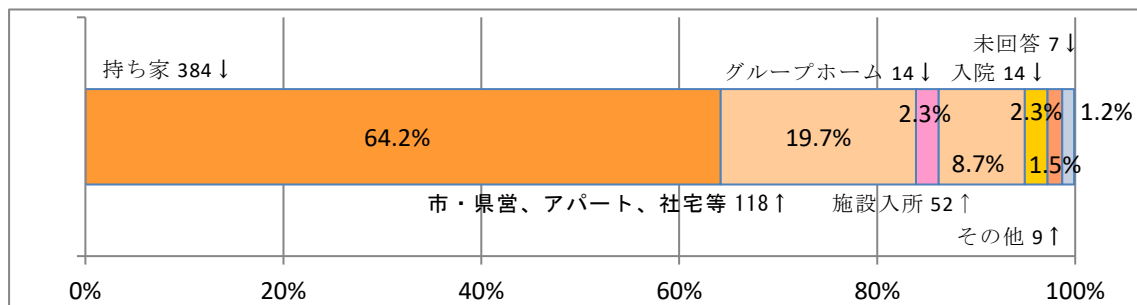
資料：平塚市障がい福祉課調べ ※当該年度の審査会での審査結果

4 生活状況

平成30年度に実施した「障がい者福祉計画（第4期）の策定に伴うアンケート調査」において、障がい者1,800人に住まいの状況について質問をしたところ、回答があった598人の中では、64.2%の人が持ち家、19.7%の人が公営又は民間の賃貸住宅や社宅・社員寮に暮らしていました。

一方で、施設入所又は入院中の人が11%いました。

◇ 平塚市の障がい者の住まいの現況



資料：障がい者福祉計画（第4期）の策定に伴うアンケート調査報告書

(平成30年度 平塚市障がい福祉課)

5 就学状況

(1) 特別支援学校

本市には、県立盲学校が1校、県立ろう学校が1校、県立養護学校が2校設置されており、市内・市外の児童・生徒 536 人が在学しています。

◇ 特別支援学校在学者数

区 分	幼稚部	小学部	中等部	高等部 本科	高等部 専攻科	計
平塚盲学校	10人 (2人)	7人 (2人)	9人 (7人)	13人 (9人)	19人 (11人)	58人 (31人)
平塚ろう学校	11人 (4人)	32人 (14人)	34人 (12人)	35人 (14人)	2人 (0人)	114人 (44人)
平塚養護学校	—	50人 (32人)	31人 (21人)	142人 (78人)	—	223人 (131人)
湘南養護学校	—	41人 (35人)	27人 (19人)	73人 (44人)	—	141人 (98人)
計	21人 (6人)	130人 (83人)	101人 (59人)	263人 (145人)	21人 (11人)	536人 (304人)

() は内数で平塚市在住者の人数

資料：平成30年度神奈川県学校統計要覧(平成30年5月1日現在)、平塚市在住者数
(神奈川県教育局支援部特別支援教育課調べ)

(2) 幼稚園・保育所・認定こども園

本市には、幼稚園が26園、保育所が38園、認定こども園が6園設置されており、合計65人の障がい児が通園しています。

在籍児に対する障がい児の割合は、幼稚園が0.7%、保育所が1.0%、認定こども園が1.2%で、公立・私立の別では幼稚園・保育所・認定こども園ともに公立の割合が高くなっています。

なお、認定こども園については、「就学前の子どもに関する教育、保育などの総合的な提供の推進に関する法律」(法律第77号)が平成18年6月に公布され、同年10月から制度が開始されています。

◇ 幼稚園・保育所・認定こども園における障がい児数

区 分	園 数	定 員	在籍児数	障がい児	障がい児比率
幼 稚 園	26 園	3,910 人	2,653 人	18 人	0.7%
公 立	4 園	140 人	66 人	6 人	9.1%
私 立	22 園	3,770 人	2,587 人	12 人	0.5%
保 育 所	38 園	3,549 人	3,709 人	37 人	1.0%
公 立	7 園	583 人	586 人	12 人	2.0%
私 立	31 園	2,966 人	3,123 人	25 人	0.8%
認定こども園	6 園	835 人	851 人	10 人	1.2%
公 立	1 園	150 人	153 人	3 人	2.0%
私 立	5 園	685 人	698 人	7 人	1.0%

資料：幼稚園：平塚市教育委員会学務課調べ（令和元年5月1日現在）

神奈川県私学振興課調べ（平成30年5月1日現在）

保育所：平塚市保育課調べ（平成31年4月1日現在）

認定こども園：平塚市保育課調べ（平成31年4月1日現在）

(3) 特別支援学級・通級指導教室

本市では、障がい児学級を小学校に73学級、中学校に36学級設置しており、合計445人の児童・生徒が在学しています。

また、小学校には、言語障がいや難聴、発達障がいにより特別な教育対応を必要とする児童のための通級指導教室を設置しており、164人の児童が通級しています。

◇ 特別支援学級の状況

区 分	小 学 校		中 学 校	
	学級数	在学者数	学級数	在学者数
肢 体 不 自 由	7 学級	11 人	6 学級	11 人
弱 視	1 学級	1 人	—	—
知 的 障 が い	29 学級	121 人	15 学級	62 人
情 緒 障 が い	36 学級	187 人	15 学級	52 人
計	73 学級	320 人	36 学級	125 人

資料 : 平成 30 年版平塚市行政概要 (平成 29 年 4 月 7 日現在)

◇ 通級指導教室の状況

区 分	言語障がい	難 聴	発達障がい	計
小 学 校	111人	12人	41人	164人

資料 : 平成 30 年版平塚市行政概要 (平成 29 年 4 月 7 日現在)

6 雇用・就労状況

(1) 職業紹介・障がい者雇用率

平塚公共職業安定所管内(平塚市、伊勢原市、大磯町、二宮町)の平成 30 年度における障がい者への職業紹介は 1,169 件であり、このうち就職に結びついたものは 249 件でした。

また、平成 30 年 6 月において、民間企業の本社所在地を基本とした神奈川県内の障がい者雇用率は 2.01%、法定雇用率を達成している民間企業の割合は 43.9%となっています。平成 29 年 6 月時点では、前者が 1.92%、後者が 47.8%でした。平成 30 年 4 月に障がい者の法定雇用率が引き上げられた影響もあり、法定雇用率を達成している民間企業の割合は減少しました。

◇ 障がい者の職業紹介状況

区 分	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計
新規求職申込件数	176件	129件	269件	31件	605件
職業紹介件数	485件	188件	473件	23件	1,169件
就職件数	66件	89件	85件	9件	249件

資料：平塚公共職業安定所調べ（平成30年度実績）

◇ 神奈川県内の民間企業における雇用率の推移（各年度6月1日現在）

区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	全 国	神奈川県	全 国	神奈川県	全 国	神奈川県
実雇用率	1.92%	1.87%	1.97%	1.92%	2.05%	2.01%
達成企業率	48.8%	46.7%	50.0%	47.8%	45.9%	43.9%
法定雇用率	2.0%				2.2%	

資料：厚生労働省職業安定局調べ

(2) 特別支援学校卒業者の進路

平成30年度に、本市に在住する障がい者で、特別支援学校の高等部を卒業した方の進路は、次のとおりです。

◇ 特別支援学校高等部卒業者の進路

一般就労	施設通所	施設入所	進 学	在 宅	そ の 他	合 計
17人	18人	1人	1人	1人	2人	40人

資料：神奈川県教育局支援部特別支援教育課調べ（平成30年度実績）

7 経済的支援

(1) 各種手当

平成 26 年度から平成 30 年度までの平塚市心身障害者福祉手当の支給状況と平成 30 年度における各種手当の支給状況は、次のとおりです。

なお、特別児童扶養手当や障害児福祉手当、特別障害者手当、経過的福祉手当の支給額はそれぞれ引き上げられています。

◇ 平塚市心身障害者福祉手当の支給状況

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
対 象 人 数	6,260 人	6,197 人	6,104 人	6,097 人	6,022 人
総 支 給 額	227,901 千円	223,782 千円	221,289 千円	219,792 千円	218,067 千円

資料：平塚市障がい福祉課調べ

◇ 各種手当の支給状況（平成 30 年度）

区 分	支 給 額	受給者数
特 別 児 童 扶 養 手 当	月額 1級 51,700円	380人
	月額 2級 34,430円	
障 害 児 福 祉 手 当	月額 14,650円	135人
特 別 障 害 者 手 当	月額 26,940円	197人
経 過 的 福 祉 手 当	月額 14,650円	11人

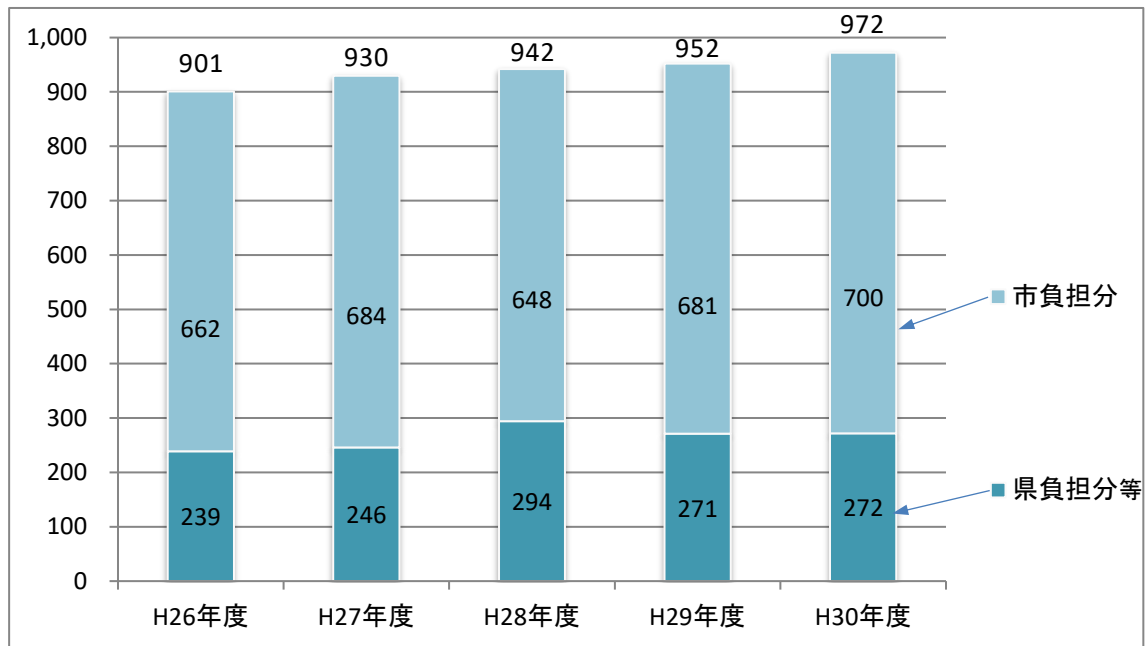
資料：平塚市こども家庭課、障がい福祉課調べ（平成 31 年 3 月 31 日現在）

(2) 重度障害者医療費助成

重度障害者医療費助成の総支給額の状況は、平成26年度から平成30年度で7.9%増で約71,000,000円増加しています。なお、「県負担分等、市負担分」とは、総支給額に対するそれぞれの財源負担額を示していて、平成30年度の市の負担割合は72.0%になります。

◇ 平塚市の重度障害者医療費助成の状況

(百万円)



資料 : 平塚市障がい福祉課調べ

8 アンケート調査結果

(1) 調査実施の趣旨

令和2年度から5か年を計画期間とする「平塚市障がい者福祉計画（第4期）」の策定にあたり、障がい福祉の基本的な施策の方向性を定め、役立てるための基礎資料とすることを目的として実施したものです。

(2) 調査方法

調査対象・・・18歳以上の障がい者、18歳未満の障がい児、20歳以上の一般人

対象者数・・・18歳以上の障がい者 1,100人

18歳未満の障がい児 100人

20歳以上の一般人 600人

合 計 1,800人

抽出方法・・・18歳以上の障がい者 本市障害者手帳台帳からの無作為抽出

18歳未満の障がい児 本市障害者手帳台帳からの無作為抽出

20歳以上の一般人 本市住民基本台帳からの無作為抽出

調査方法・・・郵送方式（料金受取人払いの返信用封筒を同封）

調査期間・・・平成31年3月29日発送、平成31年4月26日までに返送

(3) 回答状況

	回答数	回答率
全 体	871件	48.4%
障がい者	598件	54.4%
障がい児	47件	47.0%
一 般	226件	37.7%

(4) 補足説明

- 回答結果の掲載順については、回答数が多い順になっています。
- 選択・自由記述の設問については、選択回答のみ掲載しています。
- 複数回答の設問については、合計が確実に100%を超えるため原則としてパーセント表示はいたしません。

(5) 第3期アンケート調査との比較結果について

今回のアンケート調査のうち、第3期策定時のアンケート調査（前回）と同一又は同様の設問についての結果は、以下のとおりです。

①18歳以上の障がい者

現在の生活状況について

『問5：あなたのお住まいは、次のうちどれですか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「自分又は家族の持ち家」と、『問6：（問5で「1 自分又は家族の持ち家」又は「2 市営住宅や県営住宅、アパートや借家、社宅や社員寮」と回答した方におたずねします。）あなたは誰と住んでいますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「家族と住んでいる」が回答の約6割以上を占め、『問7：あなたの日常生活における介助を行う方は、主にどなたですか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください』この設問の回答である「家族又は親族」が約5割を占めています。また、『問9：あなたは、生活での困りごとや福祉制度の利用などで相談したいことがあるとき、主にどなたへ相談しますか。次の中から主に当てはまるものを1つ又は2つ選んでください。』この設問の回答である「家族又は親族」が上位を占めています。前回調査と比較すると、同様の傾向となり、日常生活において、家族の存在は大きく、とても頼りにしていることが分かります。

問5 あなたのお住まいは、次のうちどれですか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|---|--------------------------|
| 1 | 自分又は家族の持ち家 |
| 2 | 市営住宅や県営住宅、アパートや借家、社宅や社員寮 |
| 3 | グループホーム |
| 4 | 施設に入所している |
| 5 | 入院している |
| 6 | その他 → () |

(結果)

1	自分又は家族の持ち家	384	64.2%
2	市営住宅や県営住宅、アパートや借家、社宅や社員寮	118	19.7%
4	施設に入所している	52	8.7%
3	グループホーム	14	2.3%

5	入院している	14	2.3%
6	その他	9	1.5%
	未回答	7	1.2%

問6 (問5で「1 自分又は家族の持ち家」又は「2 市営住宅や県営住宅、アパートや借家、社宅や社員寮」と回答した方におたずねします。) あなたは誰と住んでいますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

1	一人で住んでいる	2	家族と住んでいる
3	友人又は知人と住んでいる		
4	その他 ➡ ()		

(結果)

2	家族と住んでいる	418	69.9%
1	一人で住んでいる	75	12.5%
4	その他	6	1.0%
3	友人又は知人と住んでいる	2	0.3%
	未回答	97	16.2%

問7 あなたの日常生活における介助を行う方は、主にどなたですか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー		
2	家族又は親族	3	友人又は知人
4	介助してもらう人はいない	5	介助の必要がない
6	その他 ➡ ()		

(結果)

2	家族又は親族	307	51.3%
5	介助の必要がない	129	21.6%
1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	74	12.4%
4	介助してもらう人はいない	30	5.0%
6	その他	24	4.0%
3	友人又は知人	8	1.3%
	未回答	26	4.3%

問9 あなたは、生活での困りごとや福祉制度の利用などで相談したいことがあるとき、主にどなたへ相談しますか。次の中から主に当てはまるものを1つ又は2つ選んでください。

1	相談支援事業所の職員		
2	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー		
3	家族又は親族	4	友人又は知人
5	民生委員・児童委員	6	障がい福祉相談員
7	障がい福祉課などの市役所職員		
8	相談する人はいない	9	相談の必要がない
10	その他 ➡ ()		

(結果)

3	家族又は親族	286
7	障がい福祉課などの市役所職員	109
2	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	83
1	相談支援事業所の職員	80
9	相談の必要がない	56
10	その他	51
8	相談する人はいない	28
4	友人又は知人	23
6	障がい福祉相談員	11
5	民生委員・児童委員	5
	未回答	12

外出をする割合について

『問 13：あなたは、外出をする日数の割合はどのくらいですか。就労や障がい福祉事業所への通所も含めます。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「週に5日以上」と回答した人が約3割を占め、続いて「週に3～4日ぐらい」が約2割を占めています。一方で、「1か月に1～3日ぐらい」や「半年に1回ぐらい」などのあまり外出する機会のない人も、約2割を占めています。また、『問 11：あなたは、外出をするとき、主にどのような目的で外出しますか。就労や障がい福祉事業所への通所も含めます。次の中から主に当てはまるものを1つ又は2つ選んでください。』この設問の回答である「買い物」や「通院又はデイケア」の回答が上位を占めていますが、「散歩、運動」や「趣味の活動」、「就労」などその他の目的による外出もあります。更に、『問 14：あなたは、外出で移動をするとき、主にどなたかが介助していますか。就労や障がい福祉事業所への通所も含めます。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。』この回答である「1人で外出する」が回答の約4割を占めますが、「家族又は親族」に「障がい福祉事業所の支援員やヘルパー」を加えると約4割を占めています。前回調査と比較すると、同様の結果となりました。

問 13 あなたは、外出をする日数の割合はどのくらいですか。就労や障がい福祉事業所への通所も含めます。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

- | | | | |
|---|-------------|---|-------------|
| 1 | 週に5日以上 | 2 | 週に3～4日ぐらい |
| 3 | 週に1～2日ぐらい | 4 | 1か月に1～3日ぐらい |
| 5 | 2～3か月に1回ぐらい | 6 | 半年に1回ぐらい |
| 7 | その他→ () | | |

(結果)

1	週に5日以上	184	30.8%
2	週に3～4日くらい	145	24.2%
3	週に1～2日くらい	122	20.4%
4	1か月に1～3日くらい	50	8.4%
5	2～3か月に1回くらい	19	3.2%
7	その他	14	2.3%
6	半年に1回くらい	9	1.5%
	未回答		9.2%

問 11 あなたは、外出をするとき、主にどのような目的で外出しますか。就労や障がい福祉事業所への通所も含めます。次の中から主に当てはまるものを1つ又は2つ選んでください。

1	企業や公共団体での就労	2	障がい福祉事業所への通所
3	通院又はデイケア	4	市役所への手続き
5	買い物	6	散歩、運動
7	趣味の活動（旅行、ドライブなどを含む）		
8	友人や知人の家への訪問		
9	障がい者団体の会合、行事（本人活動を含む）		
10	外出はしない（できない）		
11	その他 → ()		

(結果)

5	買い物	258
3	通院又はデイケア	221
6	散歩、運動	106
2	障がい福祉事業所への通所	68
7	趣味の活動（旅行、ドライブなどを含む）	67
1	企業や公共団体での就労	64
10	外出はしない（できない）	58
4	市役所への手続き	34
11	その他	17
9	障がい者団体の会合、行事（本人活動を含む）	17
8	友人や知人の家への訪問	15
	未回答	25

問 14 あなたは、外出で移動をするとき、主にどなたかが介助していますか。就労や障がい福祉事業所への通所も含めます。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	
2	家族又は親族	3 友人又は知人
4	一人で外出する	
5	その他 → ()	

(結果)

4	一人で外出する	248	41.5%
---	---------	-----	-------

2	家族又は親族	204	34.1%
1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	59	9.9%
5	その他	21	3.5%
3	友人又は知人	7	1.2%
	未回答	59	9.9%

将来について

『問 23：あなたは、将来、どのように暮らしたいと思いますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人が約6割を占め、『問 24：あなたは、将来、日常生活における介助を主にどなたからを受けたいと思いますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「家族又は親族」が約5割を占めています。また、『問 26：あなたは、将来、外出で移動をするとき、どなたかに介助してもら希望はありますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「家族又は親族」が5割を占める回答となりました。前回調査と比較すると、同様の傾向となり、将来においても日常生活での家族の存在は大きく、とても頼りにしていることが分かります。

問 23 あなたは、将来、どのように暮らしたいと思いますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

1	一人で暮らしたい	2	家族と一緒に暮らしたい
3	友人又は知人と一緒に暮らしたい	4	グループホームで暮らしたい
5	施設に入所して暮らしたい		
6	その他 → ()		

(結果)

2	家族と一緒に暮らしたい	346	57.9%
5	施設に入所して暮らしたい	75	12.5%
1	一人で暮らしたい	72	12.0%
4	グループホームで暮らしたい	29	4.8%
6	その他	26	4.3%
3	友人又は知人と一緒に暮らしたい	8	1.3%
	未回答	42	7.0%

問 24 あなたは、将来、日常生活における介助を主にどなたからを受けたいと思いますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー		
2	家族又は親族	3	友人又は知人
4	介助の必要がない		
5	その他 → ()		

(結果)

2	家族又は親族	301	50.3%
1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	180	30.1%
4	介助の必要がない	44	7.4%
5	その他	27	4.5%
3	友人又は知人	7	1.2%
	未回答	39	6.5%

問 26 あなたは、将来、外出で移動をするとき、どなたかに介助してもら希望はありますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー		
2	家族又は親族	3	友人又は知人
4	施設での訓練、ヘルパーとの訓練などにより自力で外出できるようになりたい		
5	一人で外出できる	6	特に希望はない
7	その他 → ()		

(結果)

2	家族又は親族	230	38.5%
5	一人で外出できる	125	20.9%
1	障がい福祉事業所の支援員やヘルパー	89	14.9%
6	特に希望はない	45	7.5%
4	施設での訓練、ヘルパーとの訓練などにより自力で外出できるようになりたい	40	6.7%
7	その他	17	2.8%
3	友人又は知人	6	1.0%
	未回答	46	7.7%

将来の就労について

『問 25 : あなたは、将来、どのような働き方を希望しますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「就労は難しい」と回答した人が約4割を占めており、前回調査と比較すると、同様の結果となりました。また、「就労は希望しない」という回答と合わせると約6割を占めています。その内、65歳以上の方が約7割を占めています。また、18歳から64歳までの人は約3割を占め、その約3割が障害者手帳の重度障がいのある人からの回答です。

問 25 あなたは、将来、どのような働き方を希望しますか。次の中から主に当てはまるものを1つだけ選んでください。

1	企業や公共団体で就労		
2	就労継続支援、地域活動支援センターなどのサービスを利用		
3	就労は希望しない	4	就労は難しい
5	その他 → ()		

(結果)

4	就労は難しい	223	37.3%
3	就労は希望しない	140	23.4%
1	企業や公共団体で就労	87	14.5%
2	就労継続支援、地域活動支援センターなどのサービスを利用	56	9.4%
5	その他	34	5.7%
	未回答	58	9.7%

②20歳以上の一般人

ボランティア活動について

『問8：あなたは、今まで障がい者福祉に関するボランティア活動をしたことがありますか。次の中から当てはまるものを選んでください。』この設問の回答である「活動したことない」と回答した人が約8割を占めており、『問9：(問8で「2 以前活動したことがある」又は「3 活動したことはない」と回答した方におたずねします。)あなたが現在障がい者福祉に関するボランティア活動をしていない理由について、次の中から主に当てはまるものを1つを選んでください。』この設問の回答である「ボランティア活動をするきっかけがない」「ボランティア活動をする時間がない」と回答した人が上位を占めています。しかし、『問10：あなたは、今後、障がい者福祉に関するボランティア活動を試してみたいと思いますか。次の中から主に当てはまるものを1つを選んでください。』この設問の回答である「機会があれば活動してみたい」と回答する人が約3割を占めていました。また、『問11：あなたは、障がい者福祉に関するボランティア活動を促進させるにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から当てはまるものを全てを選んでください。』この設問の回答である「ボランティアに関する情報提供」が上位となりました。前回調査と比較すると、大きな変化はなく、同様の傾向となりました。

問8 あなたは、今まで障がい者福祉に関するボランティア活動をしたことがありますか。次の中から当てはまるものを選んでください。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1 現在活動している | 2 以前活動したことがある |
| 3 活動したことがない | |

(結果)

3	活動したことがない	191	84.5%
---	-----------	-----	-------

2	以前活動したことがある	20	8.8%
1	現在活動している	9	4.0%
	未回答	6	2.7%

問9 (問8で「2 以前活動したことがある」又は「3 活動したことはない」と回答した方におたずねします。)

あなたが現在障がい者福祉に関するボランティア活動をしていない理由について、次の中から主に当てはまるものを1つ選んでください。

1	障がい者福祉関係以外のボランティア活動をしている
2	希望する内容のボランティア活動が見つからない
3	ボランティア活動をするきっかけがない
4	ボランティア活動をする時間がない
5	ボランティア活動に興味や関心がない
6	その他 ➡ ()

(結果)

3	ボランティア活動をするきっかけがない	84	37.2%
4	ボランティア活動をする時間がない	68	30.1%
5	ボランティア活動に興味や関心がない	19	8.4%
6	その他	15	6.6%
1	障がい者福祉関係以外のボランティア活動をしている	9	4.0%
2	希望する内容のボランティア活動が見つからない	4	1.8%
	未回答	27	11.9%

問10 あなたは、今後、障がい者福祉に関するボランティア活動をしてみたいと思いますか。次の中から主に当てはまるものを1つ選んでください。

1	ぜひ活動してみたい	2	機会があれば活動してみたい
3	あまり活動してみたいと思わない	4	活動してみたいと思わない
5	どちらとも言えない、分からない		

(結果)

2	機会があれば活動してみたい	77	34.1%
5	どちらとも言えない、分からない	72	31.9%
4	活動してみたいと思わない	30	13.3%
3	あまり活動してみたいと思わない	27	11.9%
1	ぜひ活動してみたい	5	2.2%
	未回答	15	6.6%

問 11 あなたは、障がい者福祉に関するボランティア活動を促進させるにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 | 障がいのある人と交流する企画やイベントの実施 |
| 2 | ボランティア講座の実施 |
| 3 | ボランティアに関する情報提供 |
| 4 | ボランティア参加証明書や修了証等の発行 |
| 5 | ボランティアに対する助成 |
| 6 | 企業などでボランティア休暇が取りやすくなる環境作り |
| 7 | 特にボランティア活動を促進させる必要性を感じない |
| 8 | その他 ➡ () |

(結果)

3	ボランティアに関する情報提供	113
1	障がいのある人と交流する企画やイベントの実施	92
2	ボランティア講座の実施	70
6	企業などでボランティア休暇が取りやすくなる環境作り	57
5	ボランティアに対する助成	45
4	ボランティア参加証明書や修了証等の発行	10
8	その他	9
7	特にボランティア活動を促進させる必要性を感じない	7
	未回答	0

(6) 今回新たに設けた設問の結果について

今回のアンケート調査のうち、新たに設けた設問についての結果とその考察は、以下のとおりです。

①18歳以上の障がい者

社会における障がい者への理解について

『問 30：あなたは、社会における障がい者への理解について、おおむね5年前と比べてどのくらい深まっている又は深まっていないと感じますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「深まっていると感じる」と「深まっていないと感じる」と回答した人がそれぞれ約3割を占めています。また、『問 31：あなたは、社会における障がい者に対する理解を深めるための啓発について、おおむね5年前と比べてどのくらい行われている又は行われていないと感じますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。』この設問の回答である「あまり行われていないと感じる」と「ほとんど行われていないと感じる」を回答し

た人は合わせて約3割を占めています。

問 30 あなたは、社会における障がい者への理解について、おおむね5年前と比べてどのくらい深まっている又は深まっていないと感じますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 十分深まっていると感じる |
| 2 | 少しは深まっていると感じる |
| 3 | あまり深まっていないと感じる |
| 4 | ほとんど深まっていないと感じる |
| 5 | どちらとも言えない、分からない |

(結果)

2	少しは深まっていると感じる	179	29.9%
5	どちらとも言えない、分からない	148	24.7%
3	あまり深まっていないと感じる	122	20.4%
4	ほとんど深まっていないと感じる	76	12.7%
1	十分深まっていると感じる	33	5.5%
	未回答	40	6.7%

問 31 あなたは、社会における障がい者に対する理解を深めるための啓発について、おおむね5年前と比べてどのくらい行われている又は行われていないと感じますか。次の中から当てはまるものを1つだけ選んでください。

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 十分行われていると感じる |
| 2 | 少しは行われていると感じる |
| 3 | あまり行われていないと感じる |
| 4 | ほとんど行われていないと感じる |
| 5 | どちらとも言えない、分からない |

(結果)

2	少しは行われていると感じる	192	32.1%
5	どちらとも言えない、分からない	147	24.6%
3	あまり行われていないと感じる	103	17.2%
4	ほとんど行われていないと感じる	75	12.5%
1	十分行われていると感じる	35	5.9%
	未回答	46	7.7%

②18歳未満の障がい児

相談窓口や支援機関について

『問5：初めて利用した相談窓口や支援機関について、次の中から当てはまるものを選んでください。』この設問の回答である「利用したことがない」と回答した人は、1人のみで、大多数の人が設問にある相談窓口などを利用しています。また、利用先のうち「こども発達室くれよん」や「医療機関」、

「学校（小学校、中学校、特別支援学校等）」が上位を占め、約6割の人が利用をしています。

問5 初めて利用した相談窓口や支援機関について、次の中から当てはまるものを選んでください。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 1 | 幼稚園、保育所、認定こども園 |
| 2 | 学校（小学校、中学校、特別支援学校等） |
| 3 | 障害児通所支援事業所（児童発達支援事業所、放課後等デイサービス等） |
| 4 | 計画相談支援事業所 |
| 5 | 医療機関 |
| 6 | 神奈川県立総合療育相談センター |
| 7 | 平塚保健福祉事務所 |
| 8 | 平塚児童相談所 |
| 9 | 子ども教育相談センター |
| 10 | 平塚市保健センター（ひらつかネウボラルーム はぐくみを含む） |
| 11 | 子育て支援センター、ファミリーサポートセンター |
| 12 | こども発達支援室くれよん |
| 13 | 市役所相談窓口 |
| 14 | 利用したことがない |
| 15 | その他 ➡（ ） |

（結果）

12	こども発達支援室くれよん	14	29.8%
5	医療機関	8	17.0%
2	学校（小学校、中学校、特別支援学校等）	5	10.6%
1	幼稚園、保育所、認定こども園	3	6.4%
3	障害児通所支援事業所 （児童発達支援事業所、放課後等デイサービス等）	3	6.4%
8	平塚児童相談所	3	6.4%
6	神奈川県立総合療育相談センター	2	4.3%
7	平塚保健福祉事務所	2	4.3%
15	その他	2	4.3%
4	計画相談支援事業所	1	2.1%
9	子ども教育相談センター	1	2.1%
10	平塚市保健センター （ひらつかネウボラルーム はぐくみを含む）	1	2.1%
14	利用したことがない	1	2.1%
11	子育て支援センター、ファミリーサポートセンター	0	0%
13	市役所相談窓口	0	0%
	未回答	1	2.1%

③20歳以上の一般人

障がい者との関わりについて

障がい者との関わりについて、『問4：あなたは、障がいのある人と関わった（関わる）ことがありますか。』この設問の回答である「関わった（関わる）ことがある」と回答した人が約7割を占めています。また、『問6：

あなたは、今まで障がいのある人への手助けや声掛けをしたことがありますか。次の中から当てはまるものを選んでください。』この設問の回答である「障がいのある人への手助け、声掛けをしたことがある」と回答した人が約5割を占め、一般の人と障がい者との関わりが多いことが分かりました。

一方で、『問 16：あなたは、社会における障がいのある人への理解について、おおむね5年前と比べてどのくらい深まっている（又は深まっていない）と感じますか。次の中から当てはまるものを選んでください。』この設問の回答である「深まっていないと感じる」と回答した人が約4割を占め、また、『問 17：あなたは、社会における障がいのある人に対する理解を深めるための啓発について、おおむね5年前と比べてどのくらい行われている（又は行われていない）と感じますか。次の中から当てはまるものを選んでください。』この設問の回答である「あまり行われていないと感じる」、「ほとんど行われていないと感じる」についても回答の約4割を占めています。

問4 あなたは、障がいのある人と関わった（関わる）ことがありますか。

- | | |
|---|----------------|
| 1 | 関わった（関わる）ことがある |
| 2 | 関わった（関わる）ことがない |

(結果)

1	関わった（関わる）ことがある	158	69.9%
2	関わった（関わる）ことがない	61	27.0%
	未回答	7	3.1%

問6 あなたは、今まで障がいのある人への手助けや声掛けをしたことがありますか。次の中から当てはまるものを選んでください。

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1 | 障がいのある人の手助け、声掛けをしたことがある |
| 2 | 障がいのある人の手助けをしようと声を掛けたが、手助けには至らなかった |
| 3 | 障がいのある人への手助け、声掛けをしようと思ったができなかった |
| 4 | 障がいのある人への手助け、声掛けをしたことがない |

(結果)

1	障がいのある人の手助け、声掛けをしたことがある	123	54.4%
4	障がいのある人への手助け、声掛けをしたことがない	23	10.2%
3	障がいのある人への手助け、声掛けをしようと思ったができなかった	16	7.1%
2	障がいのある人の手助けをしようと声を掛けたが、手助けには至らなかった	9	4.0%
	未回答	55	24.3%

問 16 あなたは、社会における障がいのある人への理解について、おおむね5年前と比べてどのくらい深まっている（又は深まっていない）と感じますか。次の中から当てはまるものを選んでください。

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 十分深まっていると感じる |
| 2 | 少しは深まっていると感じる |
| 3 | あまり深まっていないと感じる |
| 4 | ほとんど深まっていないと感じる |
| 5 | どちらとも言えない、分からない |

(結果)

2	少しは深まっていると感じる	89	39.4%
3	あまり深まっていないと感じる	68	30.1%
4	ほとんど深まっていないと感じる	31	13.7%
5	どちらとも言えない、分からない	24	10.6%
1	十分深まっていると感じる	7	3.1%
	未回答	7	3.1%

問 17 あなたは、社会における障がいのある人に対する理解を深めるための啓発について、おおむね5年前と比べてどのくらい行われている（又は行われていない）と感じますか。次の中から当てはまるものを選んでください。

- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 十分行われていると感じる |
| 2 | 少しは行われていると感じる |
| 3 | あまり行われていないと感じる |
| 4 | ほとんど行われていないと感じる |
| 5 | どちらとも言えない、分からない |

(結果)

2	少しは行われていると感じる	99	43.8%
3	あまり行われていないと感じる	58	25.7%
5	どちらとも言えない、分からない	30	13.3%
4	ほとんど行われていないと感じる	25	11.1%
1	十分行われていると感じる	9	4.0%
	未回答	5	2.2%